



平成30年10月19日
独立行政法人 国立科学博物館

新しい隕石（仮称 小牧隕石）の落下を確認しました

独立行政法人国立科学博物館（館長：林 良博）は、愛知県小牧市に新しい隕石が落下したことを確認しました。隕石の落下は2003年の広島隕石以来、15年ぶりで、今年2月に登録された長良隕石に次いで国内で52番目に確認された隕石となります。

概要

9月26日（水）22時30分頃、愛知県小牧市の民家に隕石が落下した。
宇宙線生成核種からのガンマ線を検出し隕石であることを確認した。
今後、分類を確定して国際隕石学会に登録申請する。
国際隕石学会に名称を「小牧隕石」として登録申請する予定である。



上面

下面

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部 研究推進・管理課 研究活動広報担当 稲葉 祐一

理工学研究部 理化学グループ 米田 成一（グループ長）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

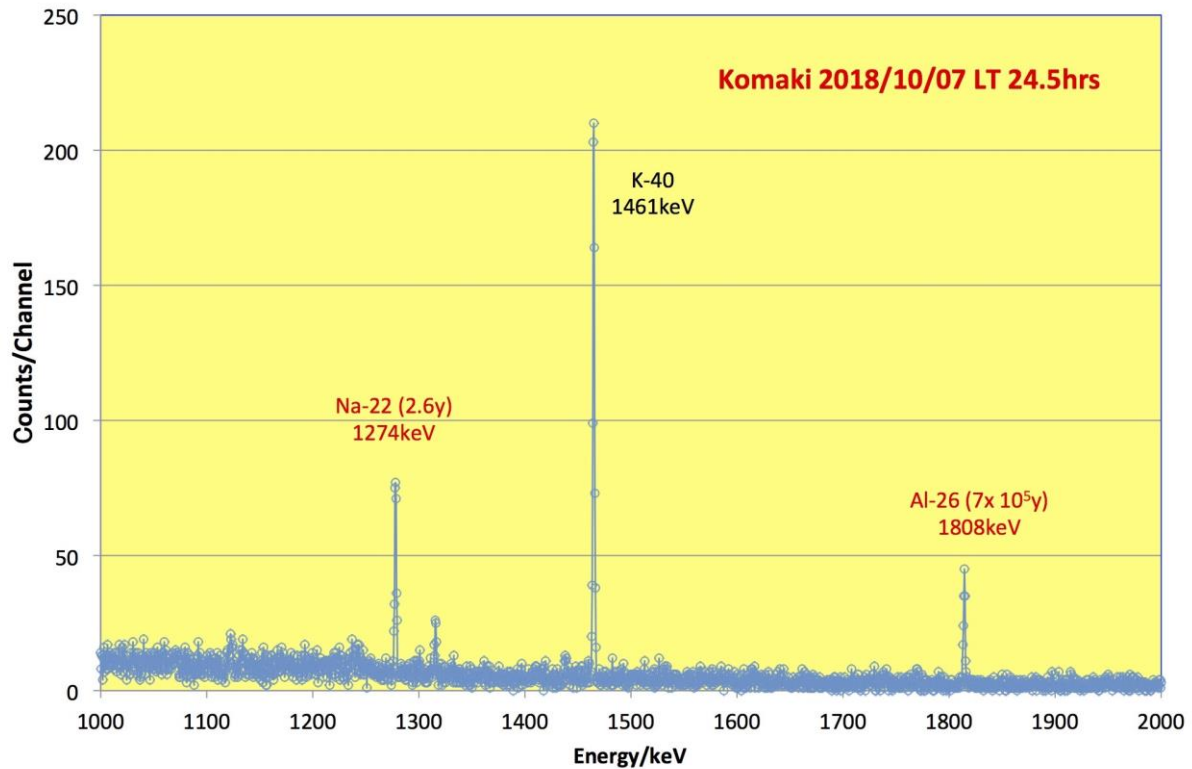
E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

小牧隕石(仮称)の確認

経緯

10月4日、愛知県小牧市の一般の方から隕石が落ちたのではないかとのお問い合わせがあり、10月6日に実物を送付いただいた。10月7日より約24時間のガンマ線測定を行い、宇宙線により生成する放射性核種(宇宙線生成核種)のアルミニウム-26(半減期約70万年)とナトリウム-22(半減期約2.6年)を検出した。これにより最近落下した隕石であることが確認された。



小牧隕石(仮称)のガンマ線スペクトル

落下状況

9月26日(水)22時30分頃、愛知県小牧市の民家で大きな音がして、翌朝調べてみると屋根に大きなえぐれた跡があり、庭とテラスに黒い破片を発見した。また、隣家のカーポートの屋根に穴が開き、止めてあった車の屋根にもへこみができていて、玄関前に黒い石を発見した。隕石は、前者の家の屋根当たって一部欠けたあと、後者の家のカーポートの屋根を破って地面に達したと想定される。



隕石が当たった屋根（所有者提供）

隕石の当たった跡（所有者提供）

隕石について

重さ：550g（最大片）

大きさ：105x85x45mm

その他に破片があり、最大のものは81g

外観から普通球粒隕石（コンドライト）の一種と思われる。

今後の予定

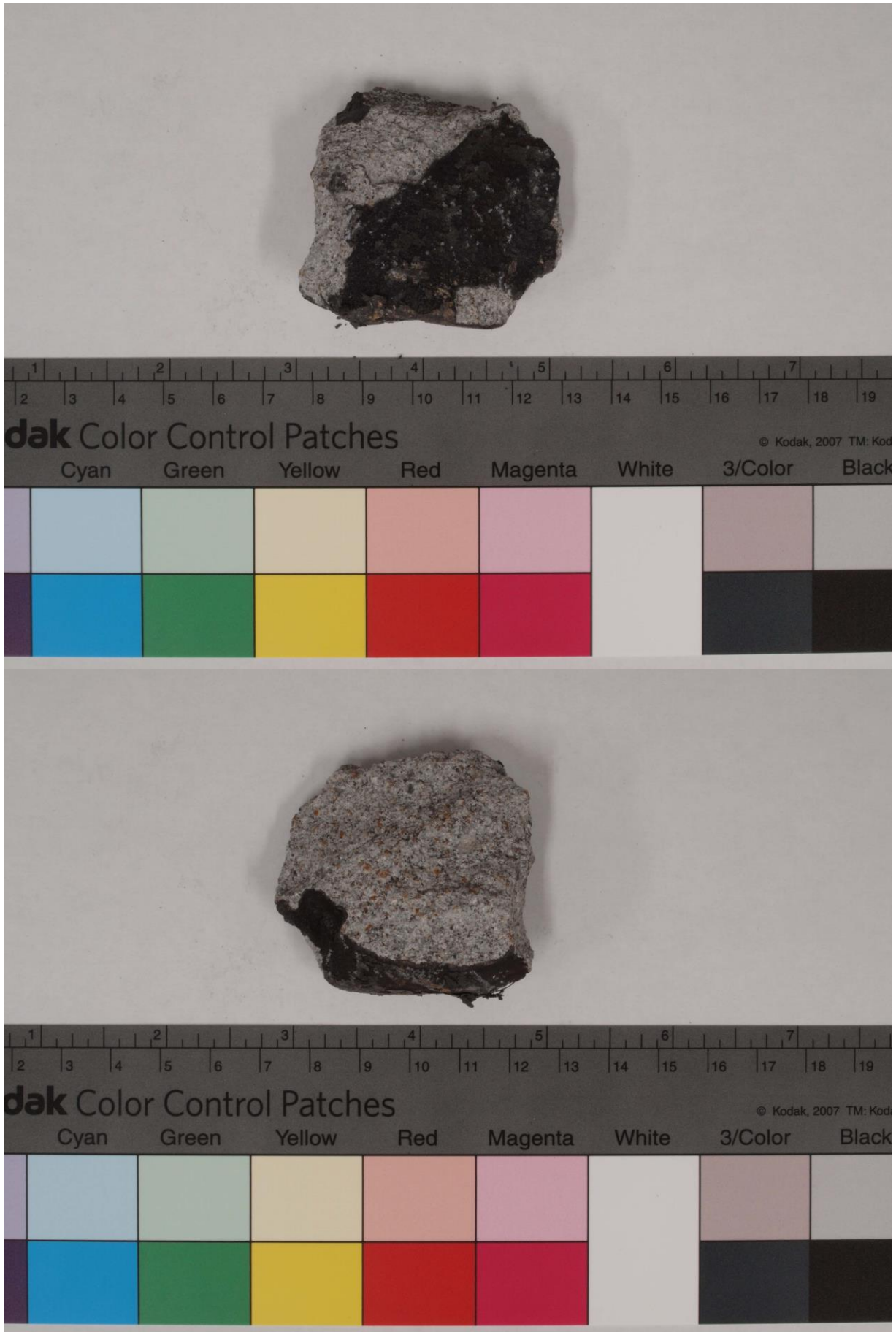
現在、大学や研究所の隕石研究者の協力をいただいて鉱物や希ガスの分析を進めている。分析により隕石の分類が確定した後（約1ヶ月程度を見込んでいる）、国際隕石学会に名称を「小牧隕石」として登録申請する予定である。



上面



下面



81 グラムの小片